



SSVC搭載の実運用がまるる脆弱性管理サービス

CSIRT / PSIRT

リスクベーストリアージ

PCI DSS v4.0対応

SBOM対応



Linux, Windows

Java等のライブラリ

Cisco等のNW機器

クラウド/オンプレ/閉域

# 「CVSS」で疲弊していませんか？

## CVSS基本値では脆弱性管理の実運用はまわせない

毎年**2万件**以上の脆弱性が公開されています。  
CVSS基本値を用いてトリアージする場合、  
どの程度まで絞り込めるでしょうか。

右図に示した、CVSSスコアの分布を見ると、

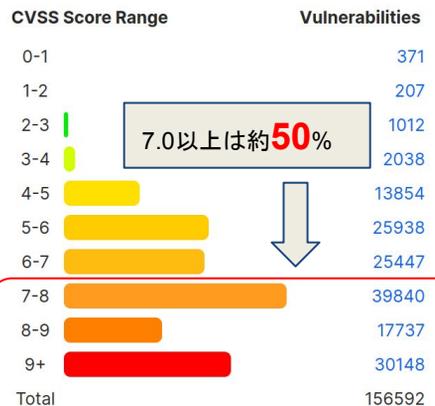
- 7.0以上の数は全体の約**「50%」**
- 8.0以上の数は全体の約**「30%」**

CVSSスコアでは絞り込めずに運用は破綻します。

実際のリスクを評価するためには、

**「リスク = 脆弱性 × 脅威 × 資産価値・業務影響」**  
の評価式のように、脆弱性情報だけではなく  
**「脅威」「資産価値・業務影響」**も必要です。

Distribution of vulnerabilities by CVSS scores



Weighted Average CVSS Score: 7.6

\* For CVEs published in the last 10 years

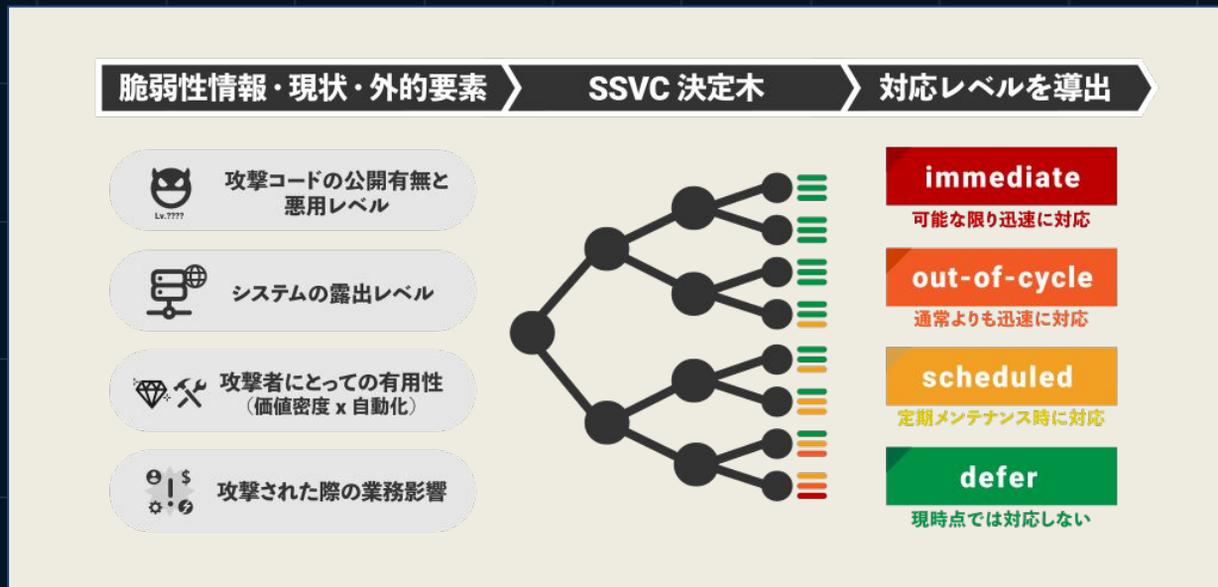
FutureVulsは「**米国政府推奨のSSVC**」を搭載。  
専門家なしに**リスクを自動判断**。CVSSの限界を打破！

様々な業界の企業様に導入頂いています



# SSVCは「実際のリスク」に基づき対応を自動決定

「脅威状況」「システム環境」「脆弱性の有用性」「業務影響」をインプットに「決定木」を用いて、検知した脆弱性の対応を4段階に自動分類します。



## FutureVulsのSSVC機能の「3つ」のメリット

### 1. CVSSの15倍以上も高い分類性能。本当に高リスクなものだけ抽出

インターネット公開の基幹システムを想定してSSVCで分類を実験した結果全体で「4,716件」の脆弱性のうち、対応が必要なものは「1.1%」に絞り込まれました。

- immediate : 16件 (0.1%)
- out-of-cycle : 50件 (1%)

	件数	割合(%)
immediate	16	0.1
out-of-cycle	50	1
CVSS 8.0以上	990	20
CVSS 7.0以上	2863	60

### 2. 判断根拠が明確

判断根拠は決定木で一目瞭然です。

<b>優先度</b> Priority	通常よりも迅速に行動し、計画外の機会に緩和策または修復策を実施する	Out of cycle	Out of cycle
<b>悪用レベル</b> Exploitation	実際に悪用を確認した信頼できる情報がある	active	active
<b>露出レベル</b> Exposure	ローカルサービスや高度に制御されたネットワーク上のシステム	small	small
<b>有用性</b> Utility	価値密度 Density 重要情報が集中している	concentrated	concentrated
	攻撃の自動化 Automation 攻撃を自動化できない	no	no
<b>業務影響</b> Human impact	業務続行不能で回復不能になる	very_high	very_high

### 3. 自動判断、対応指示も自動化

「Immediateに分類されたタスクの優先度を高に、対応期限を1週間後にセット」といった、ルールを事前に定義できます。

重要未対応	その他未対応	対応中	保留中	対応済み	すべて		
Danger	CVE ID	深刻度	Red Hat	攻撃コード	警戒情報	バッチ提供	...
	CVE-2024-40438	CRITICAL	9				
	CVE-2024-15999	HIGH	8.6				

